

ペトリカメラ株式会社

本社・工場	東京都足立区梅田 7-25-12	TEL. 887-1111(代)
東京センター	東京都千代田区九段南2-4-16	TEL. 261-9981(代)
大阪センター	大阪市南区鯉谷西之町11-4	TEL. 271-7494(代)
名古屋センター	名古屋市中区錦3-8-17	TEL. 941-3416
九州センター	福岡市上川端町14-13	TEL. 29-0653
北海道センター	札幌市南7条西10丁目	TEL. 51-0686
仙台センター	仙台市錦丁13番地	TEL. 25-1489



ペトリー眼レフ用

顕微鏡アダプターの 使い方

■ペトリV6 1/4秒 遮光筒付 対物レンズ・4X

各部の名称



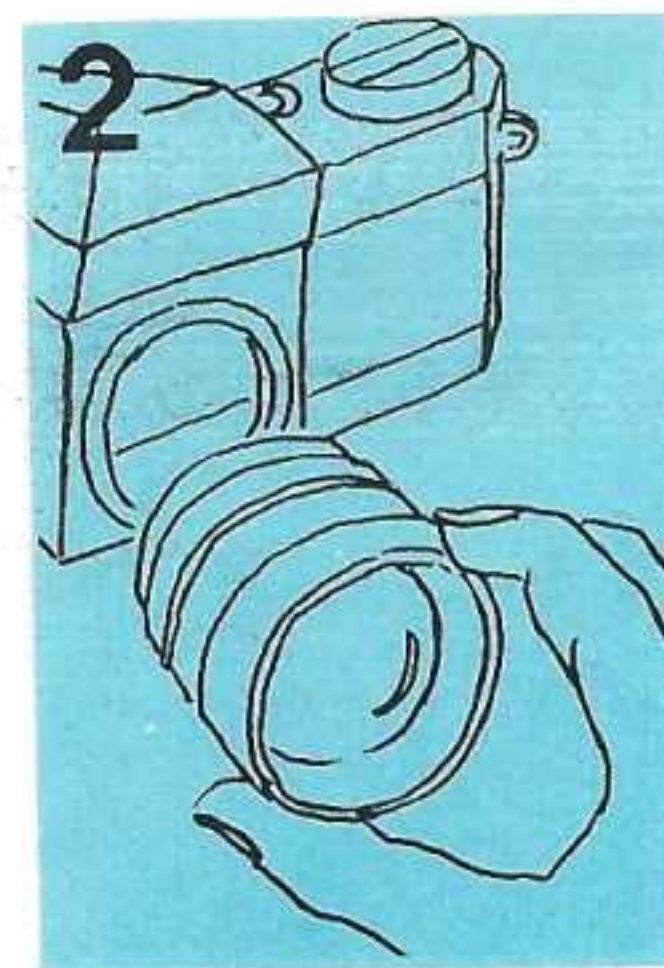
- ① 中継胴
カメラに取り付ける部分で、両端がバヨネットになっている
- ② バヨネット
中継胴と縮付胴を結びつけるもの
- ③ 固定環
中継胴と縮付胴を結びつけるもの
- ④ 縮付胴
顕微鏡の内筒を締つけるもの
- ⑤ 止メネジ
顕微鏡の接眼レンズを使わない場合に用い、顕微鏡内筒の内面反射を防ぐ
- ⑥ 遮光筒
顕微鏡の接眼レンズを使わない場合に用い、顕微鏡内筒の内面反射を防ぐ

¥3,300

取りつけ方



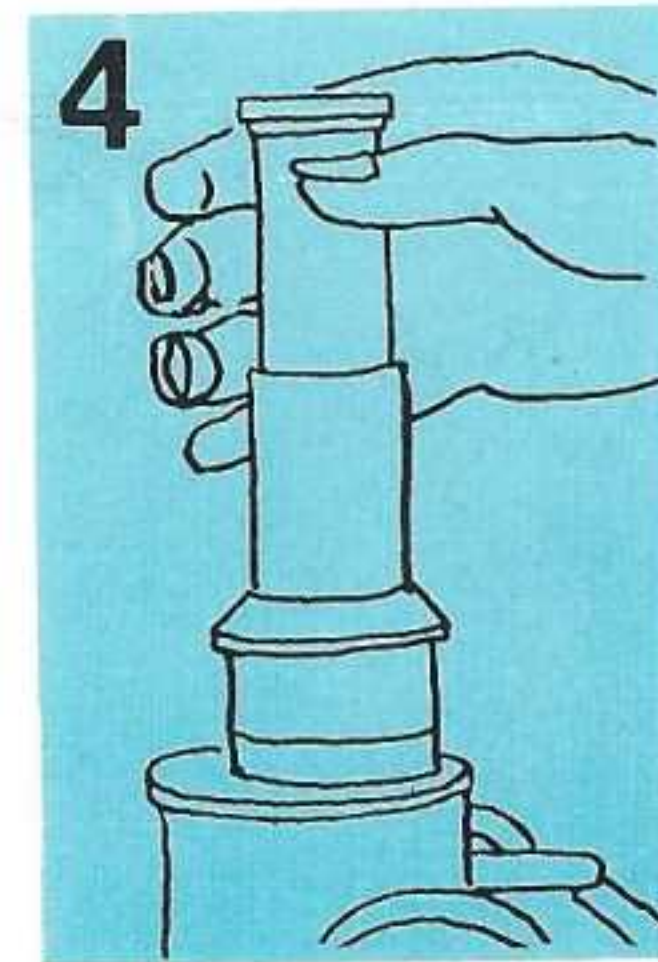
中継胴と縮付胴をはずす場合には、固定環③を右に約40度回すとはずれる。



カメラからレンズをはずす。



中継胴①をカメラのマウントに取りつける。



顕微鏡の接眼レンズを用いる場合も、いったん抜く。

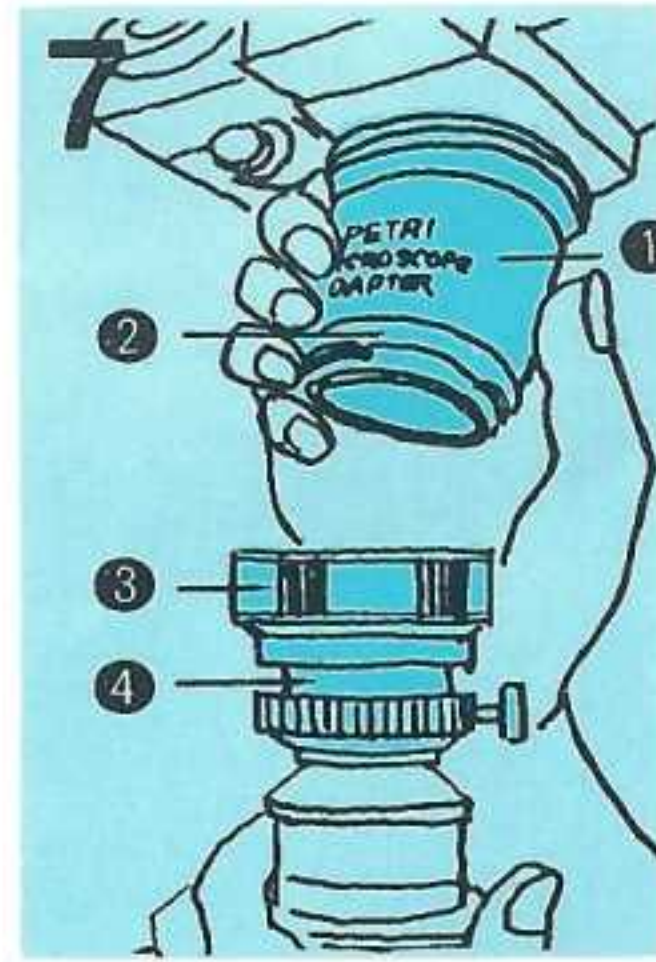
取り付け方



5 縮付胴④を顕微鏡内筒にかぶせる。



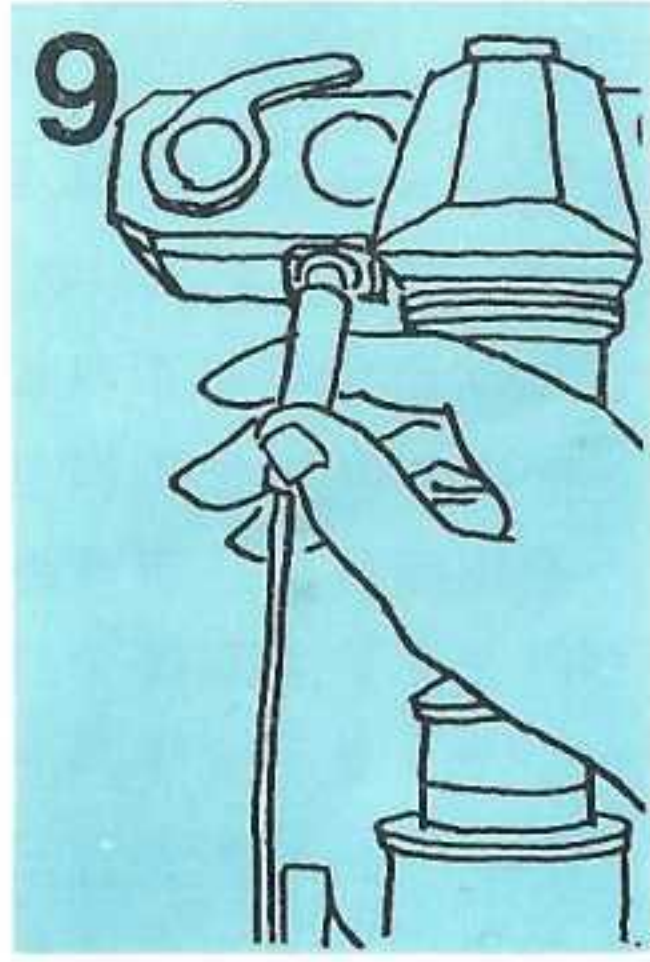
6 接眼レンズを縮付胴④の中に落とし込む。(接眼レンズを用いないときは遮光筒を落とし込む)



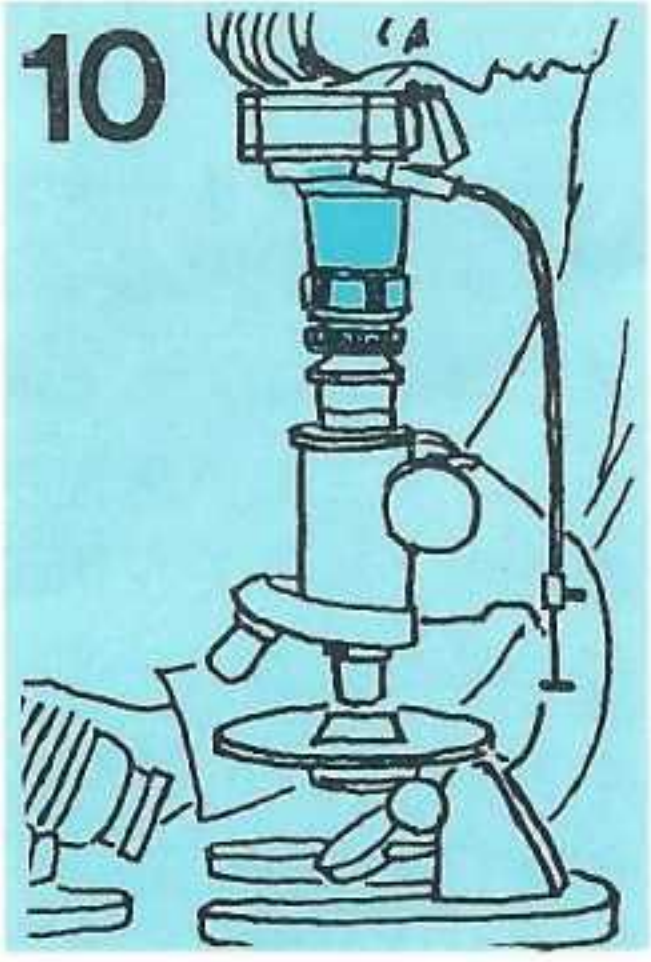
7 バヨネット②、固定環③、縮付胴④をそれぞれの赤マークに合わせ、中継胴①と縮付胴④を接ぎ、固定環によって固定する。



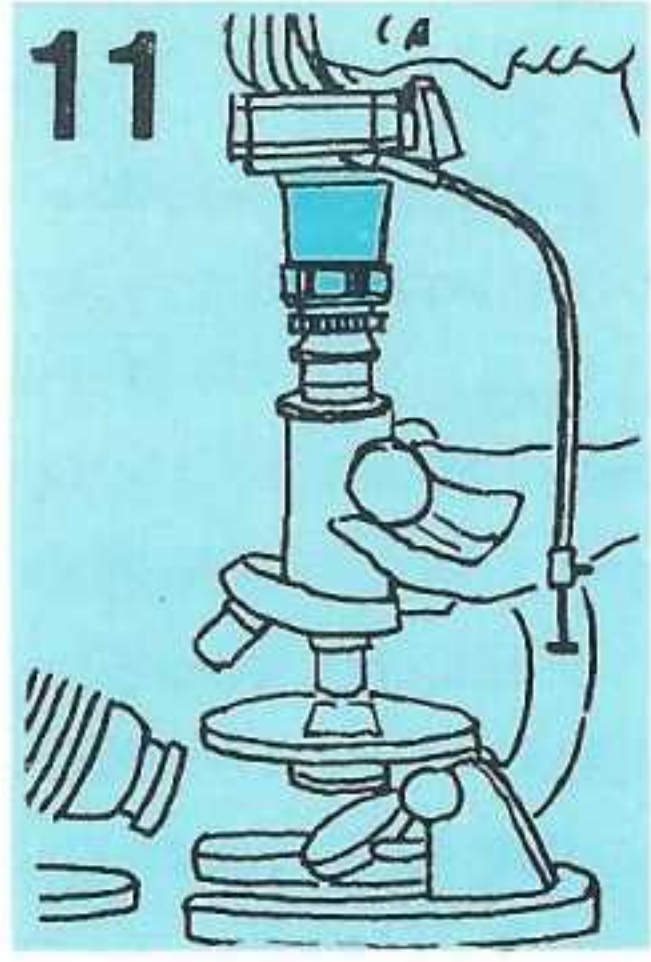
8 カメラの向きを直して、縮付胴④の止メネジ⑤を締つける。



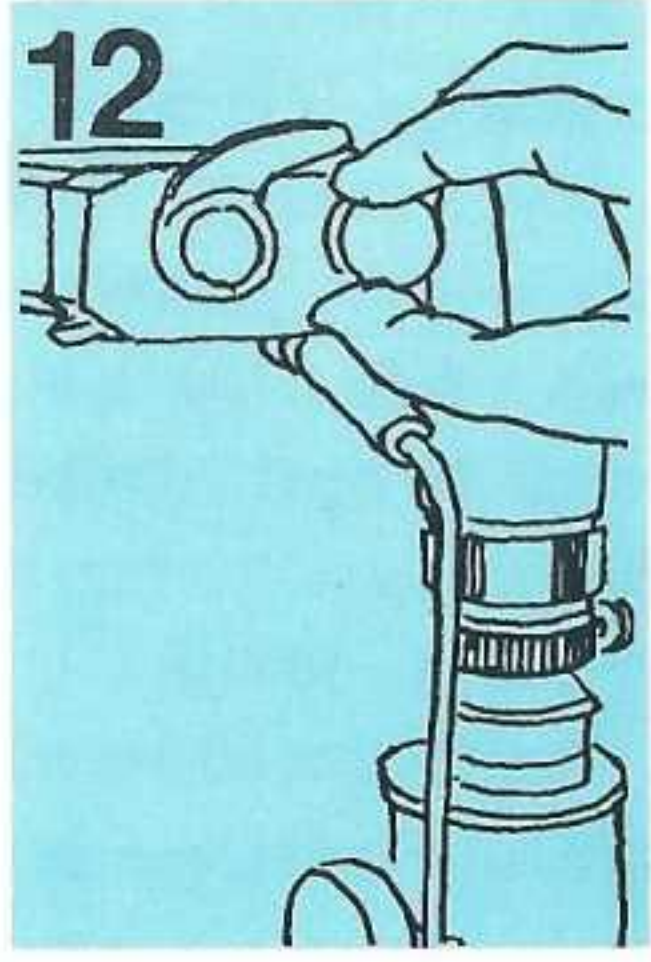
9 レリーズをつける。



10 ファインダーを見ながらプレパラートの位置を調整し、光源ランプを加減する。



11 フィルムを巻上げ、顕微鏡の粗動ハンドルと微動ハンドルでピントを合わせる。



12 シャッター速度を調節し、静かにレリーズを押す。

顕微鏡撮影のご注意

顕微鏡レンズについて

まず、対物レンズですが、写真の鮮明さ（フレアーの有無、周辺ボケ、キレコミの良否など）に大きな影響を与えますから、良品を使いたいものです。写真的に写りがよく、使いやすいのは6倍から10倍のレンズで、低倍率のものは収差補正が不十分で、撮影用としては好ましくありません。

接眼レンズは10倍程度が使いやすく、映像の周辺ボケを防ぐため、WF（広視野）、K（補正）、P（ペリプラン）の記号のあるものがよろしいでしょう。また、接眼レンズを用いず、対物レンズと遮光筒を併用しますと対物レンズの倍率よりも高倍率が得られます。

露出

ペトリFTなど、TTL露出計を内蔵したカメラでは、そのメーターの指示どおりで結構ですが、それ以外のカメラでは、カンにたよらざるを得ません。ピントガラスの明るさを揃え、適正露出予想の $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{2}$ 、1、2、4倍の5枚撮れば、適正が得られる筈です。そして、そのデータを記録し経験を生かしていけば、無駄が少なくなります。

光源

顕微鏡専用の光源ランプを使うにこしたことはありませんが、光量もあり光が集束しやすい点で100～300ワットのスライド映写機が使いやすいでしょう。またリフレクターのフォトスポットや100ワットの艶消電球でも写せます。

その他の注意

1. カメラぶれに注意

顕微鏡と台との間にがたがないようにし、必ずレリーズを用います。

2. 顕微鏡の粗動ハンドルは

粗動ハンドルがゆるくなっていると、目で見るときはよくても、カメラと顕微鏡アダプターをつけると、その重さで鏡胴が沈下してしまいますので確認してください。

3. 画像周辺のケラレ

ケラレる原因には二つあります。

- 照明方法が悪い場合、特にコンデンサーの絞りを不注意に絞った場合
- 低倍率の接眼レンズを使った場合。高倍率のものはケラレません。

4. ミニコピーフィルムの活用

比較的高い解像力、高コントラストを求める時やテスト露出にはミニコピーが適当です。

5. 照明むら

ミラー両面の使い分けや光源とミラーの組合わせ特に光源の距離、角度にご注意ください。

6. レンズの汚れ

顕微鏡レンズは小さいので汚れていても案外気がつきにくいもの、撮影前によく点検してください。

7. ピントの深さ

顕微鏡写真の場合は目で虚像を見る代りに実像を写すので、ピントの合う深さが極端に少ないのでご注意ください。